

- ▼年配の方ならどなたも唄われたことがあるのでは無いでしょうか？
- ▼そう「花火の歌」夏の童謡・唱歌・日本のうたを・・・
- ▼その歌詞は「どんとなった 花火だ きれいだな 空 いっぱいにひろがった♪♪」から始まります。
- ▼今回は、夏の風物詩である打ち上げ花火をショットしました。
- ▼「第25回みよし市民納涼花火まつり」の開催は、三次市政誕生10周年とも重なり盛大でありました。
- ▼今年のテーマは、“結火(むすび)”。
- ▼三次市のイメージキャラクター「きりこちゃん」の型物花火や、パステルカラーの花火、夏の風物詩「三次の鵜飼」をモチーフにした“どんちゃん”のリズムとコラボする花火など、多彩な演出が空を彩っていました。
- ▼フィナーレを飾る音楽シンクロ花火は豪華で、観衆から大きな歓声と拍手が送られました。
- ▼特に花火に照らされた空を見上げ、夫の肩にそっと手を添えられた、年配のご夫婦のうしろ姿はほほえましく映りました。
- ▼数年振りに花火大会に足を運び、感動した花火まつりでした。
- ▼写真撮影では、呼吸を整えてシャッター速度など工夫し撮影を試みたが改めて、撮影の難しさ、奥深さを痛感しました。
- ▼花火を眺めながら、酪農業の空に大輪の連続花火を打ち上げたいの思いますが過ぎりました。
- ▼酪農バンザイの…。



contents

- ② トピックス 第四十三回全国酪農青女発表大会
- ⑤ 会議だより
- ⑩ 地域コミュニティ
- ⑭ コラム
- ⑮ ちよつと気になる税務のはなし
- ⑰ ミルクパーラー
- ⑳ 酪農テレックス

第四十三回 全国酪農青女発表大会

■広島県代表 十九年ぶりに全国大会に出場 ■山延伊久江さん・意見体験発表の部「優秀賞」

今年四月に「西日本酪農発表大会」の予選を勝ち抜き全国大会の出場権を得られた山延伊久江さん(有限会社山延牧場)が「第四十三回

の酪友の前で「つながっていく」大切さの演題で堂々と発表された。

全国酪農青年女性酪農発表大会(全国酪農青年女性会議主催)の「酪農意見・体験発表の部」に出場され、会場を埋め尽くした六百名

の酪農青女(経営発表の部)が出席されて以降、実に十九年ぶりの全国大会出場となった。審査発表前の講評では、審査員から、牛乳

の酪友の前で「つながっていく」大切さの演題で堂々と発表された。

の酪農青女(経営発表の部)が出席されて以降、実に十九年ぶりの全国大会出場となった。審査発表前の講評では、審査員から、牛乳

(七月十七日〜十八日、宮城県仙台市「ホテルメトロポリタン仙台」)

普及のために「ときめき隊」が作詞の広島酪農版の「あたりまえ牛乳体操」の披露を求められた。

伊久江さんはこれに快く応じ、舞台正面に立ちダンス、歌を披露した。

会場内を埋め尽くした参加者からは一斉に拍手が送られ、審査結果発表前で緊張感が漂う場内に和みを与えた。



山延伊久江さん発表骨子

「つながっていく、大切さ」

酪農家の三姉妹の長女として生まれた山延さんは両親の仕事の手伝いをするのが大好きで、酪農の勉強をするために県立農業技術大学校に進学。卒業後直ぐに就農し、東広島市では第一号となる家族経営協定を締結。小さい頃から研修生がいる生活が当たり前だった環境に育ったことから、自然と小中学生の体験学習にも参加し、「伝えることの大切さ」を実感。牛乳・乳製品のPR活動では「親子トークショー」や「知事訪問」、地元酪農団体の役員としての交流会企画、女性限定の女子会「ときめき隊」での活動など、家族や地域、生産者と消費者、仲間とのつながりを大切にしながら活動を発表された。

全国選りすぐりの発表

「自らの経営の参考に」

酪農意見・体験の部で山延伊久江さんは堂々と素晴らしい内容で発表され、質疑応答では「あたりまえ牛乳体操」を披露し参加者の心を掴んだが、

惜しくも優秀賞に選ばれた。

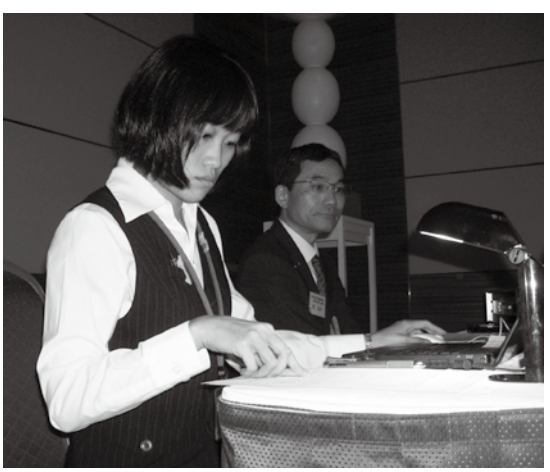
最優秀賞は、「経営発表の部」では「牛と共に歩む魅力ある酪農経営を目指して」と題して発表された東北酪農青年女性会議 高橋実さん。「酪農意見・体験発表の部」では「夫と共に：仲間と共に：夢に向かって：走っています」と題して発表された関東甲信越酪農青年女性会議 野口弘子さんが選ばれた。

被災地「東北」で感じたもの

東日本大震災以降初となる「東北の地」での開催から懇親会では、東北の酪農家の方々から「震災を乗り越え再び歩み始めています。全国の皆さんの



発表に合わせパソコンを操作する
坂田技師（手前）



ご支援、応援があったからこそ、今日こうして集うことが出来た喜びをかみしめています。皆さん本当にありがとうございます。一緒に頑張っていきましょう」と熱いメッセージと共に震災による悲惨な光景も会場スクリーンに映し出される中で、参加者の涙を誘い、感動と勇気を与えるものとなった。

（まとめ）

今回の全国大会には、十九年ぶりの広島県代表とあって、広酪としても力を入れ支援しました。伊久江さんには、

平素忙しい中で、発表大会の資料収集や発表内容の確認、原稿作成と大変な負担になったものと思います。しかしながら、ご本人やご家族の方からは、今回の参加によって貴重な体験が出来たと感謝の言葉を頂戴しました。事務局として、そのサポートにあたった坂田技師も通常業務に加え、慣れない作業や初めての経験で苦労もあつたものと思いますが、伊久江さんと一緒に取り組みできた達成感と充実感があつたものと思います。

酪農発表大会は、自らの経営や経験を振り返り、他の酪友に対するメッセージを発信し、それを見聞きした酪農家も自らの酪農経営や人生の参考となつて、相乗効果を得られることも一つの目的だと思います。皆さんも機会があれば、是非とも参加されてみては如何でしょうか。今回の体験から、更に広がった「つながり」を大切にして、伊久江さんの今後益々のご活躍をお祈り致します。



伊久江さんからのメッセージ
「発表大会で得たもの」

今回、淡路・仙台で貴重な体験をさせていただきました。発表するまでの準備は大変でしたが、改めて自分のしている事を振り返り見直す事が出来ました。

淡路・仙台で多くの仲間と知り合い、勉強にもなり刺激も受けました。これを今後に活かして行けたらと思います。これまで応援して下さい下さった方々、本当にありがとうございました。そして、このような大会や県内外で行われる行事に興味がある方は是非とも積極的に参加してみたいかがでしょうか。

